

木竹産業技術の情報発信研究 (第2報)
 -竹製品情報データベース-

北嶋俊朗, 宮崎徹, 阿部優, 坂本晃, 後藤和弘*
 竹工芸・訓練支援センター, *産業技術総合研究所研究交流センター

Study of Information Sending on Wood and Bamboo Industrial Technology (2nd Report)
 -Database of Bamboo Products-

Toshiro Kitajima, Toru Miyazaki, Masaru Abe, Akira Sakamoto, Kazuhiro Gotou*
 Oita prefectural Bamboo Craft and Training Support Center, *Oita-AIST Joint Research Center

要旨

大分県の竹製品の、データベース化を行った。データ件数は約40企業・人、250件。製品の年代は、1940年代から2001年までである。このデータベースは、竹工芸・訓練支援センター内で閲覧できるほか、インターネットでも情報の一部を公開する予定である。

1. はじめに

大分県の別府竹細工は室町時代に行商用の籠を作って売り出したのが始まりといわれている。そして昭和54年には、「別府竹細工」が通商産業省(現経済産業省)の伝統的工芸品に指定され、全国有数の竹材及び竹製品の産地となった。しかし残念なことに、近年の産業構造の変化や長引く不況・安価な輸入品の増加により、一昔前の勢いが無くなっているのが現状である。

2. 目的

散在していく過去から現代の竹製品を収録し、今後の新しい竹産業の従事者に活用してもらうことを目的としている。従来にも、一部の製作者の製品が作品集として出版されることもあったが、価格や発行部数の関係で多くの人が閲覧することは困難であった。また市場を席巻した大量に生産された製品は、作品集もなく記録がほとんどなされていない。そこで今回コンピュータ上にデジタルで記録することにより、経年劣化が無くまた検索ができ、コストを掛けずに多くの竹製品を記録することが可能となった。そしてその情報の一部を多くの竹産業従事者及び消費者に知ってもらうために、インターネット上で公開をおこなうこととした。

3. データベース

3.1 データ収集方法

大分県内の竹製品生産企業を任意に選択し、データベースの趣旨の説明及び製品の借り受け・写真撮影・調査

票への記入の依頼及び製品の返却の、一企業・人、3サイクル三日間でデータの収集を行った。調査票の様式はFig-1の通り。

竹製品DB調査票

データ入力日	製品名	管理用番号			
製作者・製造企業名		製造年			
写真番号					
大きさ(高さ)	大きさ(幅)		大きさ(奥)		
用途					
デザイナー	一般名称				
制作意図					
受賞など					
素材		号			
染色・着色処理					
編組(胴編み)	四つ目編み	六つ目編み	麻の葉編み	鉄線編み	八つ目編み
	網代編み	ござ目編み			
	その他				
編組(底編み)	四つ目編み	六つ目編み	麻の葉編み	鉄線編み	八つ目編み
	網代編み	備六角網代編み	縦六角網代編み	長柄網代	四方網代
	ござ目編み	菊窓編み	網代底	輪孤編み	
	その他				
織仕上げ	巻き縫	千段巻き縫	透かし巻き縫	返し巻き縫	矢筈巻き縫
	当巻き縫	共縫	網代返し縫	矢筈縫	えび止め縫
	輪孤消し縫	網目返し縫	当て縫	平当て縫	紐割り当て縫
	釘止め当て縫	成型縫	その他		
塗装					
価格					
記入者氏名					
備考					

サインまたは印 (データベースに製品を載せることを許可します。)
 サインまたは印 (インターネットに製品を載せることを許可します。)

Fig.1 調査票

3.2 データ項目及び件数

データ項目は「産地」「製作者・製造企業」「号」「製品名」「用途」「一般名称」「幅」「奥」「高さ」「製造年」「デザイナー」「製作意図」「受賞など」「備考」「竹材」「油ぬき処理」「染色・着色」「塗装」「製品分類」「胴編み」「底編み」「蓋編み」「身編み」「縁加工」及び製品を多方向から撮影した画像から構成されている。

データ件数は約 40 企業・人、250 件。製品の年代は、1940 年代から 2001 年までである。

3.3 データベースソフト

データベースソフトとして、ファイルメーカー社の FileMakerPro5.5 をつかった。これはデータベースの項目を自由に増やせるため将来拡張が容易であること、このソフト自体にサーバー機能があるので CDML 言語で Web ページが記述できること、XML 言語が使えらるため多くの Web ページ作成ソフトと連携できること等が理由である。

3.4 データの入力

調査票及びデジタルカメラで撮影した製品の写真を Fig-2 の画面で入力した。

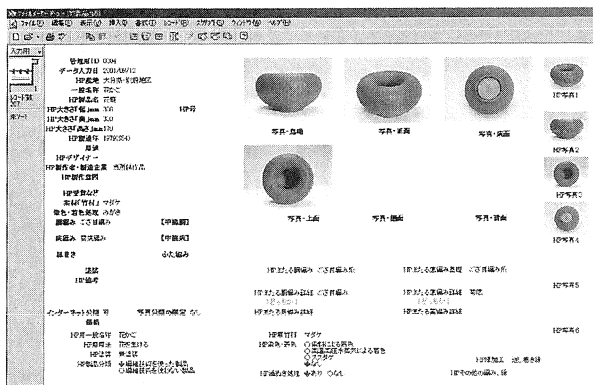


Fig.2 データベース入力画面

データ入力画面では今後もデータを入力していくために、誰もが簡単に入力できるようほとんどの項目について「値一覧」を定義して、ポップアップリストから選択できるようにした。

3.5 データの検索

FileMakerPro5.5 の「表示」メニューから「検索モード」に切り替え、検索したい項目に値を入力し「検索」ボタンを押すだけである。ここでもほとんどの項目について「値一覧」を定義して、ポップアップリストから選択できるようにしているので、容易に検索が可能である。

また画像については画面の大きさの関係で同時に大きく表示できないため、他のソフトに画像をペーストして閲覧することとなる。

3.6 Web ページでの検索

インターネットからは「用途」「一般名称」「製品分類」「胴編み」「底編み」の 5 項目のみから、検索を行うことが出来る予定である。画像については、オリジナルのデータベースと比較して 50 分の 1 程度に品質を落とした。これは、詳細な画像による製品の模倣を防ぐためと、通信速度の問題で大きなデータでは表示までに時間が掛かるのを防ぐためである。Web ページ画像は Fig-3 の通り。

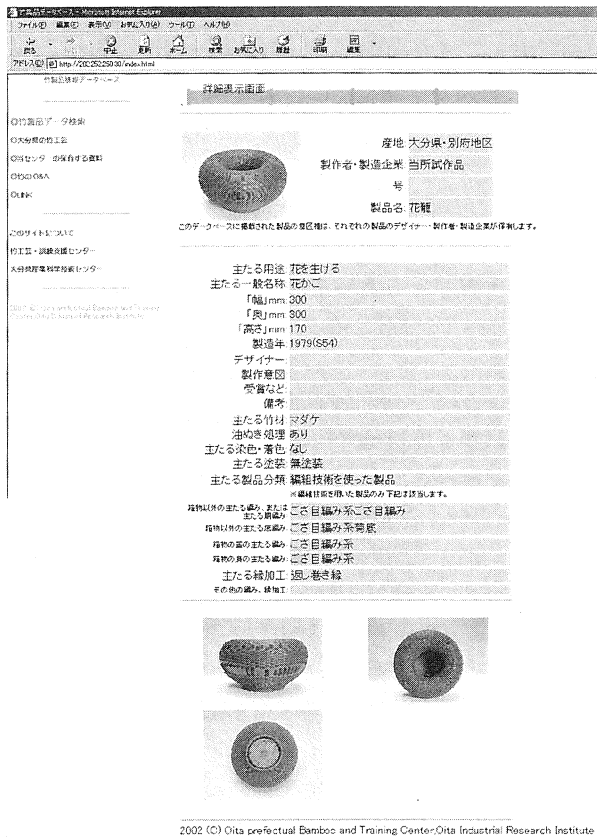


Fig.3 Web ページ画面

4. まとめ

大分県の竹製品は、編組技術についてはかなり高度であり、また竹の素材開発や竹工技術についても先進地である。しかし記録・保存をしていかなければ、優れた製品・技術は後継者に引き継がれることなく廃れてしまう。製品そのものを保管することは大変なことであるが、デジタルデータなら劣化や破損もない。当センターが過去に発刊した竹編組技術資料集と共に大分県の竹産業に役立てたい。また情報は、継続することと発信することが重要であり、今後も一年間で 100 点ほどの製品を収録すると共に、技術面でのデータもデジタル化していく予定である。そのためにも誰もが入力できる、データベースシステムの基礎を今後も作っていく予定である。